

## 第1 A分科会 研究課題「教育課程に関する課題」

### 研究主題「川南を愛し、自ら未来を拓く力を育む学びが生きる学校づくり」

#### ～「地域とともにある学校づくり」における教頭の役割について～

東児湯支会 川南町立多賀小学校 平野 崇

## 1 主題設定の理由

本町の学校教育目標「ふるさと川南を愛し未来を拓く心豊かでたくましい川南の人づくり」をスローガンに掲げ、その具現化を図るために、教育を展開している。

令和元年9月に「ふるさと川南の教育に関する調査」が実施された。調査の中で、本町の学校教育目標を具現化するためには、子どもたちの地域に対する意識付けを図る手立てが必要であり、学校、家庭、地域において具体的に取り組むことが重要であるということが分かった。

そこで、教頭として「地域とともにある学校づくり」を円滑に進めていくための役割を明らかにすることで、課題を解決していこうと考えた。

その中でも特に「**コミュニティ・スクールでのかかわりを生かした実践**」を中心に研究を進めることで、本町の教育目標の具現化を図られると考え、本主題を設定した。

## 2 研究のねらい

本町各小学校の「地域とともにある学校づくり」における教頭の役割について明らかにし、コミュニティ・スクールでのかかわりを生かした実践について共通理解・共通実践することで、地域に対する意識付けを図る。

## 3 研究の概要と成果

### (1) 研究の内容

本町で取り組んでいるコミュニティ・スクールと教頭とのかかわりを生かした主な実践について内容を分類し、教頭の役割を明らかにする。

### (2) 研究の実際

#### 【本町のコミュニティ・スクールについて】

令和2年度から中学校区での議会から小学校区での議会になった。より、地域に密着した協議が行えるようになった。

学校によって異なるが、PTA会長・副会長、青パト隊、公民館長、地区民生委員、地域学校協働活動推進委員等で構成されている。

学校行事等にも積極的に参加していただいている。

#### 【実践の分類】

### ① 学校運営協議会委員が中心となった実践

委員の方には講師として自身の「乳がん」体験を基に授業を行っていただいた。「いのちの教育」の重要性について児童の学びを深めたり、授業への改善点等について教師が学んだりすることができた。(川南小)

社会科で消防団長の立場で講話をしていただき、社会に貢献する大切さについて意識の向上を図ることができた。また、算数科を中心として授業支援員の立場でかかわってもらうことで、学力の定着を図っている。(東小)

委員を中心として見守り隊の結成や組織づくりを行った。子ども達の見守り活動とあいさつ運動を展開することで、日々の安全を高めるだけでなく見守られているという意識の高揚にもつながっている。(川南小)(東小)(多賀小)

学校運営協議会においてPTA役員選出等についての助言や、児童数が減る中での「新しい組織づくり」のアイデア等の情報を得られた。さらに、これらの情報をもとに、学校評価においても次年度に生かす指摘を受けることができた。(多賀小)

### ② 地域学校協働活動推進委員が中心となった実践

本町の地域学校協働活動推進委員は中学校区毎に1名、計2名在籍している。地域と学校との橋渡し役となっている。

学校経営方針の具現化のため、年間を通して地域人材を活用した授業を教育課程に設定できるよう支援している。特に、第6学年では「生き方教室」として授業を行い、キャリア教育へと発展させている。(通山小)

校区内に漁港があるので、教頭として地域学校協働活動推進員に協力を要請した。地域住民や関係機関に協力を得ることで、地域と全校児童対象の避難訓練(地震・津波)を実施できた。学校と地域の連帯感を高めることができた。(通山小)

ミシン学習やタグラグビーの体育指導における講師依頼やオープンスクールにおける外部講師依頼等を行い、地域と幅広いかかわりをもつことができた。(川南小)(東小)(山本小)(多賀小)

### ③ 学校・保護者・地域が中心となった実践

コミュニティ・スクールの中で取り上げられた学校の課題について、学校・保護者・地域が一体となって解決につながった。

1～4年生の水泳指導において、延べ37名の保護者から見守り支援を受けて、児童の力を伸ばすことができた。(川南小)

保護者に対して最初の参観日で生活リズムの習慣化を図るため学年目標を設定した。そして、11月の懇談会で実践したことを報告し合い、より良い生活リズムの習慣化を図った。(東小)

「ふれあい参観日」を企画し、地域人材を活用した「よのなか教室」を実施した。ブランド豚「まるみ豚」の生産者等、様々な職種の方と児童が交流を図ることで、学校と地域との結びつきを強めることができた。(川南小)

「地域ふれあい活動」では保護者と協力して、しめ縄作りなど地域の方々が活躍できる場を設定することで、地域と児童とのかかわりを深めることができた。また、「多賀フォトコンテスト」といった地域の方が主体となった活動に対し、写真を貼る場所や期間、保護者への伝達等、連絡調整を行い、円滑に活動できるようにした。(多賀小)

運動会で全校表現として地域に伝わる踊りを踊っている。保存会の方々が、職員向けの指導をしたり、全校体育で児童への指導をしたりしている。(川南小)(山本小)(多賀小)

毎月1回、地区の読み聞かせボランティアサークルの方々が読み聞かせを実施している。感染症予防のパーテーションも手作りで、安全に楽しい時間を過ごし、情緒豊かな児童の育成に寄与してもらっている。(山本小等)

### 【教頭の役割について】

- 各関係者との連絡調整
- 地域住民・保護者が主体の活動への支援
- 活動内容に対する保護者や地域への広報
- 地域の伝統文化継承に対する啓発
- 教育課程編成への助言と工夫

### 【役割の具体的な内容について】

- 日程や活動内容等の確認
- 打合せや定例会への参加及び会の運営
- 場所決定等の受け入れ態勢の整備
- 内容にかかわる施設や設備等の準備
- 活動に対する記事の作成と新聞等の発行
- 活動の学級新聞への啓発
- 活動の学校ホームページでの掲示
- 活動に対するマスコミ対応
- 内容等の掲示や提示
- 学校行事等の時期や内容の確認及び助言

### (3) 研究の成果

主な実践について内容を分類し、教頭の役割を明らかにしたことで、

- ① 学校運営協議会委員に授業や職員研修に講師等として招聘する際に、学校運営に関する建設的な意見を得ることができた。
- ② 連絡調整を密にとることで、児童や地域について詳しく知ることができた。
- ③ 地域人材を活用した企画運営を行う中で、地域の方々が児童の特性を理解し、地域での指導に役立てることができた。
- ④ 地域全体が授業や学校行事等に関わるよう委員の方々を中心として企画し、「地域とともにある学校づくり」を推進することができた。
- ⑤ コミュニティ・スクールでのかかわりを生かして、「学校の願い」「地域の願い」「保護者の願い」「子どもの願い」のそれぞれを上手く取り入れ、活動の意義をより深めることができた。
- ⑥ 各学校での実践について互いに確認でき、新たな実践への足掛かりとすることができた。

## 4 今後の課題

- (1) 地域の人材について冊子にまとめていたり、地域学校協働推進委員が把握したりしているが、中学校区や町全体としての大きな視点での活用が十分ではない。
- (2) 学校運営協議会委員がより積極的に学校づくりにかかわることのできる、活動内容等の共有化について工夫する必要がある
- (3) 「地域とともにある学校づくり」を推進していくための、明文化されていない教頭の役

割を明らかにする必要がある。

- (4) 関係機関との連絡調整等における事務処理の簡略化の方法について工夫していく必要がある。